

第5学年1組 外国語科学習指導案

令和5年11月22日（水）5校時

男子12名 女子10名 計22名

指導者 HRT : 山口 亜希

ALTの代役 : 勝井 大輔

1 単元名 Unit 6 What would you like ?

2 単元の目標

- ていねいに注文したり値段をたずねたりする語句や表現を身に付けている。活字体の大文字と小文字について理解することができる。 【知識及び技能】
- ていねいに注文をしたり、値段をたずねたりする目的や場面、状況などに応じて、学習した語句や表現を選択したり付け加えたりして、たずねたり答えたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- 他者に配慮しながら、主体的に ていねいに注文をしたり値段をたずねたりしようとしている。英語の音に慣れ親しみ、世界や日本についての理解を深めようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 単元について

○単元観

本単元は、小学校学習指導要領外国語科（3）話すこと〔やり取り〕イ「日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。」を受けて設定している。

レストランでの店員とお客の会話を題材とし、自分が注文したい食べ物や飲み物、デザートなどを伝えたり、注文されたことをしっかり聞いて接客をするという場面において、ていねいに注文したり会計したりする表現ができるようにする単元である。本単元で用いる表現は、4学年で学んだ **What do you want ?** で学んだ、相手の欲しいものを尋ねる表現をさらに発展させたもので、実際のコミュニケーションの場面でも頻繁に活用される表現である。自分が注文したいメニューをわかりやすく注文したりお客の注文を聞いたりする活動を通して、目的や相手に応じてていねいな表現でやり取りをすることができ、相手意識を持って積極的にコミュニケーションを取ることができる価値ある単元である。

前単元までに、自分のなりたい職業や学びたい教科、自分が紹介したいヒーローなどを伝え合う学習を行ってきた。本単元では、お客は自分の注文したいメニューをわかりやすく伝え、店員はお客にいい気持ちで食事を楽しんでもらうという目的意識を高めることができ、自分の思いを自分らしく伝えようとする表現が可能である。

児童にとって興味深い「食」を題材にし、レストランやビュッフェといった、今後経験するであろう場面を想定し、何を注文するか考えることは児童にとって身近なことであり、意欲的に取り組むことができると思われる。

また、前学年の **What do you want ?** と比較して扱うことで、ていねいな表現を意識するだけでな

くスパイラルな学習活動が設定でき、自分の英語表現を豊かにすることのできる構成となっている。

○児童観

本学級の児童の、外国語学習に関する実態は以下の通りである。(単位：人)

	とても思う	まあまあ思う	あまり思わない	全く思わない
① 外国語の学習は好きですか。	1 3	9	0	0
② 外国語を話すことは得意ですか。	2	8	9	3
③ 外国語は大切だと思いますか。	1 9	3	0	0

アンケートの結果から、英語が好きと答えてはいるが、外国語を話すことに関しては、4割の児童が得意ではないと答えており、自信を持っていないことがわかる。歌やチャンツなどみんなで声を出す活動には生き生きと取り組むが、1対1のインタビュー活動では、正しく発音しなくてはいけないという意識が先に立ち、声が小さくなってしまうことがある。そこで、**Small talk** への取組を通して会話をすることへの抵抗を少なくし、自分からチャレンジした時には、大いに賞賛し自信を持たせるように仕組んできた。外国語を学ぶことに関しては、ほとんどの児童が大切である、ほぼ大切であると答えていることから必要性を感じていることがわかる。外国の人と話したいから、将来外国の人と一緒に仕事をしたいから、外国に行きたいからなど、将来の夢に関連した前向きな考えを持っている児童が多く見られた。

○指導観

指導に当たっては、本単元での会話が店員とお客という立場でのやり取りであることから、日本語での応答と同じように、ていねいな表現を用いることを意識させ、積極的に接客をしようとする意欲を持たせたい。そこで、友達や家族など身近な人とのやり取りと、店員とお客とのやり取りの比較をさせることで、目的や場面を想定したやり取りのモデルを示して表現の違いに気づかせていく。話す内容や表現だけでなく、話し方や表情なども含めて「より伝わるようなコミュニケーション」の態度の育成を図る。単元の終末では、問いかけに対して答えるだけの会話だけではなく、リアクションや感想、くり返しなどを意識して話を続けられるように仕組んでいく。

本時では、**Activity** での友達とのコミュニケーション活動を通して、店員側、お客側のポイントを自分たちで考え目的や状況に応じて自分の思いを伝え合えるように仕組んでいく。前単元までに学習した表現を生かしながら、**Small talk** や **Activity** の中でさらに会話を豊かにするための英語表現を紹介することで児童が必要な時に活用できるようにする。

単元終末で「オープン！杉谷カフェ！おうちの方を招待して接客しよう！」という活動を設定することで、目的や場面に応じて伝え合おうとする意識を持つことができ、相手意識や目的意識を持って取り組めると確信する。

【言語活動の設定】

相手に応じた適切なやり取りの仕方を経験するために(目的)、レストランという場を設定し(場面)自分が食べたい食べ物などを注文し合う活動を取り入れることで(状況)、目的意識や相手意識を持ちながら、自分の思いを生き生きと伝え合う児童の育成につながると考える。

4 取り扱う言語材料

【表現】What would you like? I'd like～. How much is it? It's ～ yen. など

【語彙】デザート（cake など）（bitter など）、食べ物（rice など）、数（one など）

※既習事項も含めて、児童が使いたい表現を使う。

5 単元計画（全8時間） 本時6／8

時	目標と主な学習活動	知識・技能	思考・判断 表現	主体的に学習に 取り組む態度
1	ていねいに注文をしたり、値段をたずねたりするおおよその内容を理解する。			
2	料理、飲み物、デザートなどの表現について知る。			
3	ていねいな表現で注文する。	（聞）	（や）	
4	ていねいな表現で会計する。	（聞）	（や）	
5	ふるさとの名物を入れて、メニュー表を作り杉谷カフェの準備をする。	や	（や）	
6	ていねいな表現で、相手に伝わるように注文したり会計したりする。 【本時】	や	や	（や）
7	世界の食文化などについて考え、世界と日本の文化に対する理解を深める。	聞		
8	杉谷カフェを開き、保護者を招待し接客したりする。		や	や

単元のゴール・・・オープン！杉谷カフェ！おうちの方を招待して接客しよう！

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<知識> What would you like? I'd like～. How much is it? It's～yen. などについて理解している。 <技能> ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて聞き取る技能を身に付けている。		
話すこと「やり取り」		杉谷カフェを開き、保護者の方を招待して接客するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。	杉谷カフェを開き、保護者の方を招待して接客するために、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。 杉谷カフェのメニューとして取り入れる地域の特産物について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。

7 本時の学習（6／8）

（1）目標

ていねいな表現で、相手に伝わるように注文したり会計したりする。

【思考・判断・表現】

（2）本時の視点

レストランでの注文の場面を設定し、自分が食べたい食べ物などを注文し合うという活動を取り入れることで、児童が相手に応じた適切な表現を考え、コミュニケーションを取ることができたかを検証する。

(3) 展開

過程	児 童 の 活 動	教師のかかわり・指導上の留意点		
時間	学 習 活 動	H R T	A L Tの代役	備考
Warm up ⑩	1 Greeting ○あいさつをする。 Let's start English! ○気分、天気、曜日、日付などを答える。	○あいさつをしたり、気分、天気などについてたずねたりする。 ○ジェスチャーを交えてリズムよく話す。	○一緒にあいさつをする。 ○必要に応じて補足する。	
	2 Small Talk ○ペアで好きな食べ物について話す。	○リアクションやくり返しの表現を使って会話をつなげさせる。	○HRT とデモンストレーションをする。 ○児童と一緒に活動し会話をする。	
	3 Unit Goal ○単元のゴールを確認する。	○単元の終末で「杉谷カフェ」を開き、保護者の方を招待することを確認する。	○デモンストレーションをする。	
	4 Today's Goal ○本時の課題をつかむ。	○2つの場面について（友達とのやり取り、お客とのやり取り）についてデモンストレーションをしてていねいな表現に気づかせる。	○2つの場面についてデモンストレーションをする。	
Today's Goal 相手に伝わるように、(ていねいに)注文したり会計したりしよう。				
Main act 1 ⑤	5 Practice ○やり取りの表現を確認する。 What would you like ? I'd like～. How much is it ? It's ~yen.	○やり取りの会話を確認して、ペアで練習させる。	○「What would you like ? I'd like ～.」と「How much is it ? It's ~yen.」の表現の発音をする。	

Main act 2 ②⑩	6 Activity① ○オープン！四小カフェ！ 児童同士で店員とお客に分かれ注文と会計のやり取りをする。	○1,000円以内になるように、食べ物、飲み物、デザートを基本に選ばせる。	○ALTの代役の選んだメニューを紹介する。	メニューの絵
	★POINT (店員、お客のコミュニケーションポイントを児童が自分で選ぶ。) A: Hello! Welcome! What would you like~? B: I'd like~. A: くり返し、感想、確認など。Anything else? B: No,thank you. How much is it? A: 320yen,please.など B: Here you are.			メニュー表
	7 Activity② ○オープン！杉谷カフェ！ 参観されている先生方を接客する。		○Act①でポイントを意識して活動していた児童を賞賛し、Act②につなげる。	評価【思】【知】
	★POINT (店員のコミュニケーションポイントを児童が自分で選ぶ。) A: Hello. Welcome! What would you like? B: I'd like (), ()and (). A: くり返し、感想、確認など。Anything else? B: No,thank you. How much is it? A: 560yen,please. B: Here you are. A: Thank you so much. Have a nice day!			電卓
Looking back ⑩	8 Looking back ○本時の振り返りをする。 (Writing)	○本時の学習を振り返り発表させる。 ※簡単な単語(注文した食べ物など)の書き写しをさせる。	○児童の頑張りを賞賛したり、戸惑っている児童の支援をしたりする。	振り返りカード
	9 Goodbye ○終わりのあいさつをする。 Let's finish. See you next week.	○次時の活動を伝える。	○一緒にあいさつをする。	評価【知】【思】

(4) 評価

ていねいな表現で相手に伝わるように、自分の食べたいものを注文したりお客の注文したものを会計したりできたかを、行動観察や振り返りカードで評価する。 【思考・判断・表現】

(5) 板書計画

Unit Goal	オープン！杉谷カフェ！おうちの方を招待して、接客しよう！		
Today's Goal	相手に伝わるように、ていねいに注文したり会計したりしよう。		
Small Talk	Activity ①	Activity ②	
好きな食べ物	★注文や会計に必要な表現。 ★注文するときの約束など。 ※店員・・・やさしく ※お客・・・はっきり、ゆっくり		飲み物 食べ物 デザート